



「主体的な学びに向けて」 ～内面に耳を澄まして～

本分教室の生徒の表現の仕方は多様です。発声、表情、身体の動き等で気持ちを表してくれます。でも、話し言葉による表現は難しい実態であることから、気持ち（内面）を受け止めるための丁寧な関わりを大切にしています。

ある日の高等部Aさんの授業（ベッドサイド学習）の様子です。七夕飾りの制作でした。できあがった飾りをAさんに提示し、「これでいいかな」と担任が語りかけます。Aさんは、飾りを見つめ、少し低いトーンで「あー」とやや不満げに発声しました。表情は真剣です。担任は、「(飾りの)裏にも色を付けようか」と提案しました。Aさんの表情が和らぎ、再度意欲的に活動へ取り組みました。

本コーナー#28に新たな関係づくりについて載せていますが、人と人が分かり合うためには時間を要します。

令和4年度がスタートして3か月が過ぎました。この間、「何かが通じた」という情動の共有を素とした関係性を築いてきました。そしてその上で、(課題等を)提案し、表現を待ち、その表現を受け止め、再度提案する、といった「受容と誘いかけ」による教育的支援を積み重ねてきました。

これからも、生徒の内面に耳を澄まし、生徒と教師の豊かな関わりの中で、主体的な学びを支えていきたいと考えています。

